

1. 件名：「玄海原子力発電所3，4号及び川内原子力発電所1，2号炉の地震等に係る新基準適合性審査（標準応答スペクトルの規制への取り入れに係る変更）に関する事業者ヒアリング（32）（33）」

2. 日時：令和5年11月10日（金） 17時40分～18時45分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、井清係員

九州電力株式会社：テクニカルソリューション統括本部 土木建築本部

執行役員 赤司副本部長 他9名

（このうち3名はテレビ会議システムによる出席）

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・川内原子力発電所1号炉及び2号炉 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価について【変更箇所抜粋版】
- ・川内原子力発電所1号炉及び2号炉 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価について（補足説明資料）【変更箇所抜粋版】
- ・川内原子力発電所1号炉及び2号炉 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性について（特定重大事故等対処施設を除く）【変更箇所抜粋版】
- ・川内原子力発電所1号炉及び2号炉 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性について（特定重大事故等対処施設を除く）【補足説明資料】
- ・玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 標準応答スペクトルを考慮した地

震動評価について【変更箇所抜粋版】

- ・ 玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価について（補足説明資料）【変更箇所抜粋版】
- ・ 玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性について（特定重大事故等対処施設を除く）【変更箇所抜粋版】

時間	自動文字起こし結果
0:00:13	はい。規制庁地震津波の鈴木です。それでは、九州電力玄海川内の
0:00:21	標準とすべき性を考慮した地震動評価のヒアリングを始めます。
0:00:27	本日はですねそれぞれ川内玄海ともにまとめ資料、
0:00:32	の修正というか細かいところですね確認一昨日押しといて、そこで紙の修正と、
0:00:41	いうことで幾つか、
0:00:43	確認がありましたのでそれぞれ、
0:00:47	二つずつですかね、資料が出てますので、その変更箇所をについて確認をいたします。
0:00:53	川内玄海どちらからでも結構ですので説明をお願いします。
0:00:59	はい。九州電力の野村です。そうしましたら仙台の方から先にご説明させていただければと思います。で、仙台の方のまとめ資料のイメージの方の変更箇所抜粋版の方、
0:01:14	先にご説明させていただいてそのあとでまとめ資料の方をご説明させていただきます。
0:01:19	なので先にTTS063で、そのあとにTTS092の方、先にご説明させていただきます。
0:01:26	まず、TBS063の方になりますけれども1ページから4ページまでは前回のヒアリング同様、変更点の概要と、それから小タイトルの記載をしております。
0:01:41	今回の資料変更箇所抜粋版というところでこのまた補正のイメージにつきましては、文章の方は前文とあと図表の方は変更箇所のみをつけている状態となっております。
0:01:56	衛藤創志そうしましたら変更箇所の方を説明させていただきます。
0:02:02	変更箇所ですけれども22ページをお願いします。
0:02:07	22ページの下の方ピンクハッチをつけている部分から23ページに渡る部分ですけれどもこちら地下構造モデルの妥当性に関する記載を充実させていただきます。
0:02:18	前回コメントというか議論になった内容といたしまして今回妥当性に使った部分の内容をもう少し記載を充実するということで、
0:02:29	ただ、衛藤昆川内につきましてはもともと既許可の妥当性確認で使っていた内容が、と記載がない状態でありましてそれに加えて今回のどうかどうかというところをちょっと議論、社内でも、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:44	議論しまして今のような記載になっております。一方で他社の方の記載もちよっと横並びとしてみたいんですけどもなかなか妥当性の記載をしてるところがあまりないというのを確認してはおりましてただ、
0:02:57	衛藤柏崎の方の審査資料見、申請書を見てると、妥当性確認記載はあるもののまずとは記載はしてないんですけども妥当性確認。
0:03:09	でも聞く記載があるの確認してちよっとその横並び等を三つ記載をしたというところなんです。で内容としましては設定した地下構造モデルについてというところで始まる部分で既許可のもともとの、
0:03:22	鉛直アレイによる背確認整合のところそれから、微動アレイにか、関するところさらにというところで今回鉛直アレイの地震観測記録、これが220地震のところになりますけれども、
0:03:36	そこで確認した応答スペクトルの部分を記載して異常より設定した地下構造モデルが、短周期から長周期までの全周期体において適用可能であり妥当であることを確認したという記載にさせていただきます。
0:03:50	続きまして 36 ページをお願いします。
0:03:55	こちらが達毎の方の記載になってございますけれども、留萌の方の記載につきましては前回のヒアリングで地震基盤、すいません。
0:04:07	基盤地震動オオノ位置付け、それから、最終的に 606 から読み取りの不確かさを踏まえて、620 ガルに上げた部分の記載が、若干明確になってない部分があるというところだったと思いますので、
0:04:22	その部分をわかるように記載したというところになってございます。前半の信頼の高い基盤地震動推定されてるこれを参考にというところに関してはまず佐藤ほかの地震、基盤地震動があつてそれにした参考に、
0:04:37	不確かさを踏まえて基盤地震動を算定するという記載に直してます。
0:04:40	で、あと衛藤す。最後のところ不確かさを考慮しのところは、読み取りによる不確かさの記載を追記しているというところがございます。
0:04:50	続きまして 37 ページをお願いします。
0:04:55	こちらの部分はもともと前回のヒアリングですと地下構造モデル、というふうな文言を直接書いていて一般論の話を書いてはいたんですけどもわかりやすさの観点で、
0:05:07	江藤 7.5. 5.4 の地下構造モデルを示すというふうな記載に見直してるところでございます。
0:05:17	はい。都築江藤 30。
0:05:23	8 ページをお願いします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:27	この部分が実観測記録の観測記録の収集の部分で、もともと近傍という言葉を書いていたんですけども、
0:05:38	選び方としてまとめ資料で書かせていただいたのは、もともと 30 キロ、
0:05:44	以内の記録を近傍として集めて、そこからない場合は 50 キロに広げていくというところでした。で、それが実際言葉を取ると 50 キロになると結局近傍じゃなくなるんじゃないかというところでちょっと、
0:05:59	文章上で見ると矛盾があるんじゃないかというところだったかと思えます。で、この部分につきましては実観測記録の位相を用いた模擬地震は 2、敷地地盤の振動特性を適切に反映するため内陸時、地殻内地震の観測記録を収集し、
0:06:15	模擬地震はの作成に用いる観測記録はというふうな形で記載を見直してございます。
0:06:21	はい。で、
0:06:24	ちょっと細かいところになりますけれども、60 ページお願いします。
0:06:31	こちらちょっと参考文献のところになりますけれども、もともと記載していた内容第 1、一般の地震本部の記載、及びの記載が漢字で記載しておりましたけれども正しくはひらがなで記載するのが正しいものでしたのでひらがなに直しております。
0:06:47	最後 70 ページになりますけれども、こちらは以前、ヒアリングでコメントいただいております。ここ整合性の確認という文言を使っておりますけれども本文の記載と、
0:06:59	合わせまして妥当性確認というところで記載を見直してございます。
0:07:04	補足説明資料については以上になります。
0:07:08	続きましてTTS062 の方の資料をご説明させていただきます
0:07:16	こちらにつきましては、変更箇所抜粋版というところで、まとめ資料の変更した部分だけを抜粋をしているものでございます。
0:07:25	まず 53 ページをお願いします。
0:07:30	ピンク色のハッチの部分が追記した部分ですけれども、今回Ssさんの審査の中で超過確率を確認しているものですので、括弧書きのところ標準応答スペクトルを考慮した地震動、括弧Ssさんの年超過確率も、
0:07:44	10 のマイナス 4 から 10 のマイナス 6 乗程度というふうな記載を追記しています。同じような記載は、P の 54 ページも、54 ページの方も同じような変更となっております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:56	続きまして 127 ページですけれども、先ほど補足説明資料の方で留萌のほうの記載を修正しておりましたのでそれに合わせて記載を合わせているところになります。
0:08:08	ご説明は以上になります。
0:08:15	はい。説明ありがとうございました。
0:08:19	先に簡単の方でまとめ資料の方は、
0:08:25	明示的にSsさん。
0:08:27	としてはどうだということで、
0:08:30	記載をいただいていると。
0:08:33	あとすいませんちょっと留萌の方は結局のところ補正イメージのところを話聞くので、
0:08:41	じゃあ、TTS06、呉さんでいいですかね。はい。
0:08:49	これはですねちょ
0:08:52	ね。
0:08:57	ちょっと待って。あれ、まず、
0:09:00	こないだ話があったごめんなさい
0:09:04	熊本地震の話で聞いてドウしたんでしたっけ。
0:09:18	九州電力の本村でございます。熊本地震の話、以前、前回のヒアリングで被害地震のところに、
0:09:26	という話がちょっとあったと思うんですけども、もともとその熊本地震については 100 キロ以上離れてるところっていうところもありまして、検討用地震の候補にすら挙がってこないということもありまして、
0:09:40	全く影響がないということもあります。で、この間のヒアリングでありました通り、被害地震のところに、
0:09:49	熊本地震というのを入れた方が後の観測記録に繋がるというようなところでベターかとは思ったんですけどもちょっと我々も検討したんですけども、ちょっと今回の補正の我々のスタンス、
0:10:02	としてはですね、影響のないところはちょっと変えずにですね、ちょっと標準応答スペクトルの、
0:10:08	関係のところを補正したいというところでちょっとスタンスを考えてまして、ただちょっとほったらかしておくっていうところは、考えてないので、今後ですねちょっとFSARとかそういうところを使う。
0:10:23	見ながらですねちょっと記載を充実していくっていうところをちょっと今、
0:10:26	我々としては考えているというところでございます。
0:10:38	ちょっと待ってくださいね。67.5 の構成からいくと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:45	被害地震はどういうものを被害地震として挙げるかで、
0:10:50	7 ページの終わりから 8 ページにかけてタオカ 7521。
0:10:56	被害時に関する記録は古くから見られとって何々何々等がある。
0:11:02	7 号に位置図は敷地からの信用距離が 200 メートル程度以内の被害時の、
0:11:09	信用分布を示した、で、
0:11:12	被害地震ワダから敷地から 200 キロ程度以内のものは拾いますとここではない、
0:11:22	今回はだからその 200、
0:11:25	キロメートル程度以内だけど、その中でも遠いところなのであえてそこには、
0:11:31	手はつけません。
0:11:33	という、
0:11:41	九州電力の本村でございます。
0:11:43	鈴木さんがおっしゃったようなことをちょっと考えたところでございます
0:11:51	その心は、
0:11:55	そのあと 2、多分被害地震として個別名称が書かれたりするものって多分出てくる。
0:12:02	ですかねえ。
0:12:05	そこに書かれるようなものでもない、ちゅうことになるんですか、これ。
0:12:09	九州電力の本村です。10 ページの真ん中あたりに、震度 5 程度。
0:12:15	以上ですかね。で、
0:12:19	1997 年 3 月の鹿児島県北西部地震それと 5 月の同じような地震とあと、桜島の地震というところが、マーケ、この後検討用地震の選定の
0:12:31	の方に移るんですけどこれらの被害地震が、
0:12:34	検討用地震の候補みたいな形で上がってくるんですけどこれよりは、もう遠い地震ですのでここにすら上がってこないような、
0:12:45	熊本地震はそういう地震。
0:12:47	ではあるところでございます。
0:12:54	ね。
0:12:58	別の切り口でいか。
0:13:01	もうこれは仙台なんで、
0:13:03	この間長期評価のところでもう一応、
0:13:09	仮に、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:11	あれかな、日向灘の辺りとかあの辺りの地震で、
0:13:17	評価のときの気象庁カタログで当時は拾っているんで、そういった意味で抜けはないんだけど微妙に来地震規模が変わったり微妙に敷地からの距離が変わったりしてるのが、
0:13:28	地震長期評価の 2022 年とかですね。
0:13:32	ノモトデータに行くと、若干アップデートはされてるけれども、そっちはあえてほぼ同規模でMΔ図も変わらないからまあまあ、
0:13:43	テンロクーをアップデートしませんっていう話でしたよね。
0:13:48	そういうところの関係からいくと、この 7521-6
0:13:52	7 ページ後半からを直すと。
0:13:56	ここで言ってるだから気象庁、熊本地震を入れるとここで言ってる気象庁地震カタログとかが、
0:14:03	年号が新しくなるというか最新版になり、
0:14:07	そうすると、いわゆるMΔのところでは拾ってるやつも、
0:14:12	同じものから拾ってるから、そっちもアップデートされることになり、
0:14:17	他にもいろいろ含めて、
0:14:21	変える必要が出てくる。
0:14:23	てしまうというか、
0:14:25	そこまで手つけるかっちゃうそういう話ですか
0:14:48	うん。
0:14:49	でももしですよ。例えば気象庁カタログ等があるだからトダテなんでもいいので、その後、
0:14:56	気象庁カタログは最新版にまではアップデートしないんだけど、
0:15:00	熊本地震自体は発生してるんで別に
0:15:03	被害地震の 7 号に位置図は、
0:15:07	せろと言ってるんじゃないすよ、アップデートすると。
0:15:11	しますとしたときに、
0:15:15	そこだけアップデートするっていうふうになると、ここで地震の規模信用の 1 は、ほにやららホデハラダ自身型リングによる、
0:15:24	ジンノコサクここ地震カタログってなるから、
0:15:28	でもこの等があるからいいのか、職員の違いを考慮しても敷地与える影響が小さいことを確認した上で、
0:15:36	阿久津勝勝。
0:15:38	さらに 1923 年以降の地震は、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:42	ここで、2、2010、1123 年以降の地震は気象庁カタログ値をそれぞれ用いている。
0:15:50	だから結局ここそれらの緒元をだから、気象庁カタログ新しいものを使わないと。
0:15:56	熊本地震の諸元が減らなくなりますっていうそういうことですか。
0:16:00	ただ、
0:16:02	最後、その先に行くと、
0:16:05	陸域及び海域の浅いところで発生する内陸地殻内地震としてM6.5 の地震が見られる敷地から 30 キロ以内を
0:16:13	置いて、ここで敷地から 30 キロ以内の問題で個別名称が出るんで、
0:16:18	ここには出ないちゅうことなんですかね。
0:16:21	100 キロ程度の日向灘海洋プレート内、この辺に行くと内陸地殻が熊本地震みたいに内陸地殻内ではなくて、
0:16:31	プレート内とかプレート間とか、
0:16:33	そういう地震が書かれるんですかねえ。ううん。
0:16:38	確かに今後と自身を入れると手つけるところは、細々といっぱいありますっていうのはまあそうなんですけど。
0:16:45	さっき
0:16:51	規制庁の名倉です。
0:16:53	すいません本人、佐口さんがいる前であれなんだけど、
0:16:56	前回のTT052 の資料で、
0:17:02	51 ページ 52 ページとか見ると、
0:17:06	諸元表があって、
0:17:09	こういったものを見ると、熊本地震というのは、表の中に入ってくるから、
0:17:16	だから、
0:17:19	今回ハザード評価とかで影響も評価してるし、
0:17:23	そこら辺は反映したらいかがですかという趣旨で僕は話をしたと思ったんで。
0:17:30	そこら辺はちょっと、
0:17:32	今後どういうタイミングでどういうふうに切り替えるのかっていうのはちょっとあるんですけど、
0:17:37	一応そういう趣旨だと理解してました。
0:18:44	はい、規制庁スズキですけども、
0:18:47	ちょっと今これ仙台の説明なんで、
0:18:51	生体の方は直接それ何か今、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:56	今回の申請の中で変更の内容の中で熊本地震というものが使われており、出てきてるわけでは直接はないので、
0:19:05	ちょっと補正申請書のところで、
0:19:08	確かに 7.5. 1 から含めてひっくるめてざっと書かれると気にはなるんですけど、
0:19:13	手術としては今回の申請の中で、そこまで、いわゆる熊本地震を入れます。そうすると、
0:19:21	いろいろとこの気象庁カタログの情報をアップデートし全体を変えていきますとそこまでの、
0:19:26	もんではないですよねと。
0:19:28	ことで、そういった趣旨は長期評価のところでもお話しはして聞いてはいますので、
0:19:36	主、もし、
0:19:38	この 10 ページみたいなところで敷地で震度 5 弱程度以上となるようなものっていうそこにまで出てくるようなものだったら、
0:19:47	当然ながらPAとしているけれどもっていうことで、
0:19:50	そうすると多分検討地震の選定みたいなところも当然説明もね、あるわけなんで、
0:19:55	そういうものではないからちゅうことです。はい。
0:20:00	確かに気象庁カタログみたいなものは随時、
0:20:04	アップデートされていくものではありません、それを何ていうか、
0:20:09	申請のたびに、
0:20:11	1 個 1 個最新版にしていくっていうと、それはそれで、
0:20:16	いわゆる申請書として、
0:20:18	して扱うかっていうところはあるので、
0:20:21	そこは一つの考えで少しちょっとすという仙台は、はい。
0:20:25	わかりました。
0:20:26	その上でだ。
0:20:29	ちょっと待ってくださいね。
0:20:44	はい。その上で、地下構造モデルのところで、
0:20:53	今回、修正を考えているということで一番下から設定した地下構造モデルを示した後に、
0:21:01	設定した地下構造モデルについて、
0:21:06	異論殿。
0:21:07	地下構造モデルの理論伝達関数と、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:13	定時な位置から地震観測記録の伝達間、
0:21:19	を比較し、
0:21:22	C、
0:21:26	また、
0:21:28	微動アレイ、
0:21:31	ちょっと待ってくださいねこれ
0:21:34	22 ページのところと言ってるものと 23 ページの方で行っているとちょっと ですね、これ、もう一度それぞれどれがどの時点の何のことを言ってる か、説明してもらっていいですか。
0:21:45	はい。九州電力の本村でございます。まず、22 ページの
0:21:52	地下構造モデルの理論伝達関数と鉛直アレイの地震観測記録の伝達 関数の比較で、整合を確認したというところは、これ企画許可の時のも のです。
0:22:04	で、そのあとまた以降で微動アレイの話も出てるとは思いますけど、これも 既許可の時の妥当性確認メニューになってますんでこの二つが基本の 時で各
0:22:17	特に確認したことになります。さらに以降が、
0:22:23	鉛直アレイの地震観測記録の応答数は、応答スペクトルというところで これは今回のものになって、この三つを三つの目に踏まえて最後以上 よりって書いてますけども、短周期から長周期までの
0:22:38	全周期体において適用可能というところで、妥当であるということを確認 したという流れで、今回記載させていただいています。
0:22:46	規制庁鈴木ですはい。
0:22:50	です。そうするとというかその、むしろその前の段階の分ところなんです けど、
0:22:56	これはこの後で玄海の玄海の方で改めてと思うんですけど、
0:23:00	一応その審査会合で議論してきた取りまとめ資料でまとめてきた内容 で、
0:23:07	あくまで1、
0:23:09	新しく
0:23:11	地下構造モデル 1 から作り直しました。では、
0:23:14	なくて、
0:23:16	川内に関して言えばもともとあった長周期における理論的手法に用いる 地下構造モデルがあって、それはそれで長周期 2 の理論的賞に用い れるということは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:28	一旦許可において妥当性を、
0:23:31	説明確認を、
0:23:33	して説明を受けていて、
0:23:36	その上で、今回、標準応答スペクトルにも使います、扱うとか標準とするでも使いますと。
0:23:42	というのが仙台のですね、地下構造モデル
0:23:45	これを使います。なので、
0:23:47	短周期側でも使えるかどうかを見ましようねと。
0:23:51	地震基盤相当面から上、短周期側で使えるか見ましようねという流れ。
0:23:56	だったので、
0:23:58	確かにそれを申請書の中で時系列を追って書くというのはさすがにと。
0:24:04	というのはあるんですけど、
0:24:06	一方で、今の書き方で 7554 のこの書き方でいくと、何とか 1 から全部作り直しましたのようにも見えるんですよ。
0:24:21	ちょっとコウ真木他の。
0:24:24	地下構造モデルの書きぶりも一番左ですね、22 ページのそんなに長く書いてるわけじゃないんですけど、
0:24:31	一応地下構造モデルとして、この断層モデルを用いた手法による地震動評価のこの長周期の理論的手法に用いる
0:24:39	こういう目的のものと、
0:24:42	より短周期まで含めて標準応答スペクトルものと、
0:24:47	この二つの使用用途の
0:24:49	地下構造モデルを、
0:24:51	作るんです。
0:24:53	長周期のを、
0:24:55	そこで、少しその二つの用途というか使い道があつて、
0:25:05	講師、ちょっと清川のところでもうすでに確認済みというか説明済みのような、
0:25:10	ところと、今回、そうですね、新しく設定し直したり少し数字を変えたり、的を正確にしたりってところが、
0:25:17	こうして切り分け、
0:25:20	切り分けるというかちょっとパツと今ですねこういう書き方ってすぐ思いつくわけじゃないんですけど。
0:25:26	もっと今の書きぶりだと、完全にゼロベースで、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:30	作られてっていうと我々もその目で見えてきましたかっていうとそういうことでもないので、
0:25:39	上の、制定根拠は川内の場合はですよ。
0:25:46	もともと地震動評価に使う速度構造、鉛直アレイ微動アレイ
0:25:52	密度、
0:25:56	イシカワ店
0:25:57	D層、仙台の場合は
0:25:59	上で赤文字で、赤文字かなこれ赤間じゃないか緑か。
0:26:04	75号のハッチングする前、前の部分ですよ。
0:26:08	ここワー
0:26:10	理事、今日からいじってないから単に許可の書いてあるのを、
0:26:15	何だ、
0:26:18	詳細に深さ方向とか速度だ、窮地だという書き出しただけですよ。
0:26:25	多いですよ。あごめんなさいちょっと笹井の音のためなんですけど、
0:26:29	いいですかそこは。
0:26:31	九州電力の本村でございます。許可のときの設定から、何か変えたかっていうと書いてない状態で、ちょっと許可の時は記載が足りなかった
0:26:44	ので、エレベーションとか入れながら、
0:26:50	層ごとに設定根拠を書き下していったということなんです。
0:26:51	はい。
0:26:54	そうするとですよ。
0:27:01	このようにっていう趣旨でこれの、この書き方しかないという意味では申し訳ないですけど、
0:27:06	ちょっと審査経緯というかあとはまとめ資料との関係も含めて言うと、
0:27:18	なのでまずちょっと地下構造モデルの冒頭の部分ですね、許可の時にも一応断層モデルを用いた手法による地震動評価の長周期体における
0:27:20	いろいろな評価に用いる
0:27:26	そういう用途の、
0:27:32	と、あとは標準応答スペクトル後で、飛ばせばいいと思いますけどね。
0:27:35	後、
0:27:39	どどこで用いる地下構造モデルでもいいですけど、違う地下構造モデル
0:27:42	というかモデルとして1本なんですけど、
0:27:45	用途として二つありますと、
0:27:48	地震動評価上で、その上で地震動評価に用いるこの地下構造モデル
0:27:51	は、速度構造骨ら一密度は何とか減衰値何とかで設定しますと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:46	ここは変わらないわけですね。
0:27:48	今度設定した地下構造モデルを示した後に、この何か整合性の確認とか、妥当性の確認とか書いてありますよね。
0:27:56	そうすると、
0:27:58	設定した加工のモデルに、だからまずあれですね、
0:28:02	長周期体の理論的評価に用いるという観点で、
0:28:07	地下構造モデル理論伝達関数と下にある鉛直アレイの何とかと、
0:28:13	整合性を確認して、
0:28:16	地下構造モデルの理論
0:28:18	位相速度と微動アレイで何とか何とかの確認。
0:28:22	しましたってのは許可の時点での話ですね。
0:28:25	さらにと書いてある部分が、これをさらに
0:28:30	標準を通せ太るみたいな三種期待も含めて、
0:28:33	適用できるように、
0:28:34	こういうようなものを確認しました。
0:28:37	すると、さらに以降が今回示したものでその前のものは、以前から示してあったもの。
0:28:45	で、
0:28:46	それが長周期体の理論的手法の話と、短周期も含めた標準応答スペクトルの話ってところが、
0:28:53	申請書上も、
0:29:00	節目セルというかそもそも、
0:29:03	許可の時に示した
0:29:06	直アレイそ伝達関数とか、
0:29:09	理論
0:29:10	位相速度と微動アレイのやつが、これが何か短周期体にも使えるかどうかみたいな見方では、
0:29:16	会合でも説明してないし聞いてないですね。
0:29:19	だから、22 ページの、
0:29:24	下の五、六行の話と 23 ページの冒頭の話は、これは長周期の理論的手法に用いるという観点で、確認し、いわゆる整合性を確認したことで、
0:29:35	さらに以降が、23 ページのさらにコウが標準を取ってくると用いるということで短周期側も含めての適用性というか妥当性の確認として行ったこと。
0:29:46	なので以上よりだから全部体重記載で使えるんです。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:51	だから両方の目的で使えるんですっていう。
0:29:54	ちょっとそういう流れかとは思いますが、あんまり許可とか自警そういうことは当然書けないのは承知してるんですけど。
0:30:03	もっと今回審査で確認したこと、
0:30:06	以前から確認して改めて確認する必要がなかったことってのは何なのかっていうのは、
0:30:11	ちょっとそこは、6 畳もトレースできるようにしてもらいたいかなと思って るんですけど。
0:30:18	ちょっと今の私のイメージだったんで、あれですけど。
0:30:24	なので、ちょっと仙台に関して言うと、地下構造モデルの冒頭のところや っぱり二つし、後段で二つの目的で使います。こういう根拠でそれぞれ の値を設定しました。
0:30:37	その設定した付加構造モデルは表の 57552 です。
0:30:42	で、農地長周期で用いるという観点でこういうものを確認していて、短周 期体でも使えるという観点でこういうものを確認してっていうと、
0:30:51	これも審査で確認してきた内容というか、
0:30:55	趣旨と、
0:30:56	合うとかなという。はい。
0:31:09	うん。そう。そうすると、急に全周期体でっていうふうになってるのこれだ から正しく標準応答スペクトル。
0:31:16	後の、
0:31:18	とかと思いますけどね。
0:31:31	はい。なので今もですねこのなんか整合性の確認妥当性の確認という ところは多分それをある程度意識して、さらにみたいな形で、
0:31:40	さらにこういうことをやって全周期体で確認したって言うてるので、趣旨 としてはあるんだと思うんですけど。
0:31:45	あそこってやっぱもともと複数用途で、
0:31:49	があって、もともとの用途のもの、
0:31:53	今回のものを、今回改めて用途が拡大されたわけなんで、
0:31:58	うん。
0:32:00	それぞれ何によって何を確認したっていうところはきちんと書いていただ いてると思うるので、
0:32:12	はい。
0:32:15	趣旨はとりあえず伝わりましたかね。
0:32:18	明石さん、どうですか。大丈夫

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:20	明石さんと柿木。
0:32:27	いや、よろしいですか。明石でございます。どうぞ。
0:32:30	今鈴木さんからご指摘ご出資が理解しました。
0:32:36	私は理解しました。もう要は何か大きく書きかえてくれ、書き換えた方がいいんじゃないかっていう趣旨ではなくって、ちょっと書き足すとしてまずは 22 ページ地下構造モデルの冒頭で、
0:32:51	地震動評価に用いる地下構造モデルのものって始まってますけども、そこ何だっけ、断層断層モデルを用いた手法によるルー、これこれのうち長周期
0:33:06	体における理論的いい方法に、
0:33:09	よる評価に用いる、さらには、標準応答スペクトル具による評価に用いる地下構造モデルについてはっていうようなことをちょっと冒頭に断つとい
0:33:20	て、22 ページの下の今緑文字の頭とかハッチングの頭ぐらいに、長周期についてはこれこれこれこういうことで確認したで、
0:33:32	23 ページ、さらにの前あたりで短周期についてはコレコレコレ確認した、最後以上より全周期体においてというような流れ。
0:33:44	になるような技術、構成にすればいいんじゃないかと。
0:33:49	いう趣旨。であったというふうに理解しました。
0:33:53	はい。よろしいでしょうか。はい。はい。都築さんは、まさしくそのような理解で。はい。書いてある内容がおかしいということではないので。はい。
0:34:02	そうですね。ちょっと 755 の冒頭のところも、
0:34:06	確かに、
0:34:08	ずっと長々長々と書いて地震動評価に用いる地下構造モデルはっていう主語がものすごく長くなるので、もしかしたら、この二つの用途で、用いる地下構造モデルを設定します。0 っていうふうにもう 1 回切ってから、
0:34:21	地震動評価に用いる地下構造モデルの速度構造はっていうふうに戻。佐瀬主語が長すぎないっていうのは、そういう工夫は適宜やってくださいと。趣旨はもう今明石さん。
0:34:33	おっしゃる通りで伝わったと思ってますので、
0:34:36	書き方とか
0:34:38	単語の書き方というか主語の書き方とかお任せしますんで、
0:34:52	ですかねそうすると、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:55	次がですねそのあとは、
0:34:58	大分飛ぶのかな。
0:35:01	あとは留萌まで飛ぶんでしたっけ。ちょっと待ってくださいね。
0:35:10	一昨日のヒアリングを踏まえてというところと言うと、あとは留萌まで飛ぶんですよね。
0:35:16	ちょっとここもね
0:35:19	確かに一昨日餅は私の言い方もあんまり良くなかったというところもあってそのあとアノ佐口の方から話があったと思うので、
0:35:26	36 ページかな。
0:35:28	はい。ちょっとまず、基盤地震動のところまで出てくんします。で、
0:35:36	まず、なんか佐藤ほか 2013 によりある程度高精度は高いんですけど、
0:35:42	地盤用が獲られてるんで信頼性の高い基盤地震動が推定されている。なんで佐藤ほか 2013 の基盤地震動があつて、
0:35:51	それに不確かさを踏まえて、御社がですよ。
0:35:55	減衰を大きく動きが小さくなった、見積もって、作った基盤地震動があつて、
0:36:04	なので、不確かさを踏まえた基盤地震動を作っていますと。
0:36:07	いうところですね。はい。そうすると一ちょっと私の言い方があまりよくなかったんすが間違ってたのかもしれないですけど、その解放基盤は 2、
0:36:19	さらに不確かさを考慮し、というところが、
0:36:23	ここはだから前の部分で、もともと観測記録からサトウから 2013 でやられてる基盤はに不確かさを考慮した基盤を作っていますと。
0:36:35	いう趣旨で、レバー
0:36:38	あえて後段のところ、確かさを考慮して保守性をというところを、
0:36:44	いかなくても既許可の、
0:36:47	申請内容からは外れて、
0:36:51	来ないんじゃないかなというふうに、今のこのですね前半部分を、
0:36:55	修正案を見てふと思ったんですけど、この点はいかがですか。
0:37:12	はい。九州電力の本村です。鈴木さんがおっしゃられるように、そうも考えられるかなとは思ってるんですけど
0:37:23	この間もちょっと議論あつた別記 2 の基盤地震動っていうのが、なかなか二つ考えられると思ってまして、一つが、ここに書いてる通り、佐藤他の 2013 の基盤は、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:37	が書かれ知見として書かれてるのか、それとも、不確かさを考慮して事業者が、606ガルとか6609Galとかっていう基盤は、を作ってるので、そこまでの基盤。
0:37:51	地震動のことを指してるのかっていうところもちよっとはつきりはちよっと読めないところもあって、もし后者であれば、そこからまた不確かさを考慮して、620ガルっていうのを、
0:38:02	策定したと、いうふうに考えるのであれば、
0:38:07	えいやと上げたところでは、我々読み取りの不確かさっていうのもあったので、そこら辺の不確かさっていうのが、
0:38:14	書いといた方がいいのかなともちよっと思ったりしてちよっと。
0:38:17	ちよっと悩んだところではあるんですけど、
0:38:24	確かに基準。
0:38:25	そのものを、
0:38:27	作った人間がいない場で何かいろいろ、推論で話をするとあれなんですけど、
0:38:32	ただ解釈別記のところで、震源勤務次の記録知見をもってすべて用いなさいと言ってるナカノモリですね。
0:38:43	2004年北海道留萌署南部地震において防災科系ん港町観測点における観測記録から推定した基盤地震動、これを使いなさい。
0:38:54	ですね、その観測記録をもとに各種の不確かさを考慮してっていうと、
0:38:58	例示で挙げられている知見と言ってるのが御社として佐藤他2013で、
0:39:04	そうすると解釈別記2の漢数字の3ですね、上記の、
0:39:09	震源を特定せず策定する地震動のところで、
0:39:12	震源近傍における観測記録をもと2のところまで佐藤ほか2013の話があって、各種の不確かさを考慮して、
0:39:21	ところで、それがまさしく、
0:39:24	佐藤ほか2013に対して、
0:39:26	さらに減衰の不確かさを考慮して、
0:39:29	敷地の地盤別に応じたスペクトルを策定しましたと。
0:39:33	事だとするとあえて後段のところに不確かさと書かなくても、
0:39:38	じゃないかなという。
0:39:43	なくても話としては通じてるなというのが今のこのできた。
0:39:47	36ページをですね。
0:39:51	さらに、解放基盤にダイレクトっていうのは、入れるサイトもあれば入れないサイトもあるので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:57	そこが不確かさ。
0:39:59	ていうと、
0:40:02	それわあ、
0:40:05	何か大きくは、単にそれは、
0:40:07	何ていうか、港町観測点相当層がどこにあるかだけの話なので、
0:40:13	そこは単に敷地の地盤物性に応じてナゴ者は敷地の一般物性に応じれば別に
0:40:18	そのまま入れましたっていうことだし、確かにそこにね、実際保守性っていうものが生まれるわけですけど、
0:40:25	あえて後段の不確かさを考慮しはなくても、
0:40:30	もともとなんですね、一昨日の段階なんでも後半は繋がるのかなと、前半部分がここまで明確にされるのであれば、
0:40:37	というふうにすいません。
0:40:39	ちょっと一昨日と違うような言い方私もし、してしまってますけど、
0:40:54	はい。
0:40:55	ちょっとすいません一昨日のひょ伝えた表現ぶりがあんまり良くなかったかもしれないので、保険としてスムーズ書いたのかもしれないですけど、
0:41:03	はい、九州電力の野々村です。おっしゃる通りですね
0:41:07	梅本基生アノ基盤地震動の部分が、ルームサトウの方なのかそれとも不確かさを考慮した後なのかっていうところで、あと、審査書の話もされてたと思うんですけどそれに不確かさを考慮してっていう話があってもし仮に、
0:41:22	不確かさを考慮した後の基盤地震動が起点になると、そのあとの不確かさっていう部分で申請書と差異が出るっていう話だったと思ってますので今現状の記載としては、
0:41:34	その基盤地震動の方、基盤地震動っていうのはサトウの方を指しますという話で今、記載しておりますのでおっしゃる通り後の方の不確かさという部分は消しても、問題ないと、我々の方もはい。
0:41:48	考えておりますので削除する方向で修正させていただきます
0:41:53	はい。ちょっとかなり初期の頃だったので、どういう趣旨だったかなというところも私も若干不勉強な部分があったところは否めないのですね。
0:42:03	はい。
0:42:04	なんで前半部分がこう書かれるのであれば後半部分をむしろなく、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:10	ない方がというか、
0:42:11	その後、
0:42:12	最近もちょっと特定せずが出るモリの説明を聞いているような太細と。
0:42:17	の状況とも合うかなと思いますので、
0:42:20	はい。そうする等、
0:42:22	36 ページの前半部分はこのような形で、
0:42:27	二つの基盤地震動というかもととのアノサトウオカ 2013 の基盤地震動でそれに不確かさを踏まえた基盤地震動、
0:42:36	いうことで後段は、この解放基盤は 2002、
0:42:40	さらに保守的に、ホスティングこういふこと言う保守性を持たせましたと。
0:42:46	いうシンプルな記載でいくということで、
0:42:49	これは限界も含めて、共通の書き方だと思いますんで、はい。
0:42:53	その上でですよ。36 ページの最後から 37 ページか。
0:42:59	ここは地下構造、どの地下構造モデルを使ってとかっていう話は出てくるんで、
0:43:07	ここは趣旨としては、
0:43:28	はい。ここの部分は、そうですねもともと大分
0:43:33	充実しては書いてはいるので、
0:43:37	あとは、図面とかでごめんなさい。直したところというのがまさしくさっきの、
0:43:43	どこでしたっけ。
0:43:49	表のタイトルかな。
0:44:00	妥当性確認か。はい。
0:44:06	どうしますかね。ちょっと待ってくださいね。これわあ。
0:44:11	7553 表なんで、
0:44:15	これは、
0:44:20	タテような
0:44:22	69 ページはこれ地下構造モデルでいい。はい。7、70 ページのナゴ 53 が、
0:44:30	これが、
0:44:32	いまいち続くだから、
0:44:34	これ 20 地震ですよ。
0:44:36	これわあ、最後どうするんですかここは妥当性確認ちゅうことで、
0:44:47	わかりました。10 さっきの説明だと、もととの長周期の理論的手法の方の妥当性っていう話と、それを短周期体側の妥当性っていう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:59	ところで明確に切り分けて、どの部分の妥当性の説明をしてるんだって いうのは、
0:45:05	上の本文側で、添 6 の文章の方で書かれるということで、
0:45:09	そこに合わせてここは妥当性っていう形で書くと。
0:45:13	ですかね。はい。
0:45:15	わかりましたじゃこれはこれで、他のタイトルも本文側の趣旨に合わせ ると、
0:45:21	はい。
0:45:22	ええ。
0:45:26	そうすつとすいません最後、ちょっと時間もオーバーしてますけど、
0:45:30	限界ですかね。
0:45:35	限界については留萌は、省略していただいて構わないのでそうすると、
0:45:41	まとめ資料の方も申し上げておきますねこれは年超過確率のところも、
0:45:47	記載してくださいといったものを書いただけのイメージであとはそうです ね。
0:45:53	留萌のところも、特に説明はいいので、
0:45:59	資料の方、説明を今申し上げたような共通する部分というか、
0:46:04	端折って説明してください。
0:46:07	はい。九州電力の野々村です。そうしましたらTPG058 とTT057 のまと め資料と、変更箇所の補足説明資料の方のご説明をさせていただきました。 いただきますけれども、
0:46:21	先ほど仙台の方でご説明した都道んの箇所についてはご説明を省略さ せていただきます。
0:46:30	違う部分につきましては地下構造モデルのところ、5、21 ページ、22 ページのところに、
0:46:40	なります。
0:46:43	こちらも前回のヒアリングを踏まえまして地下構造モデルの部分、地下 構造モデル妥当性の部分の記載の充実化を図ってございます。
0:46:55	7.5. 5.15 に示す、地震の鉛直アレイ地震観測記録と、設定した地下構 造の応答版の応答スペクトルを比較し、設定した地下構造モデルの応 答は応答スペクトルが、
0:47:07	地震観測記録の応答スペクトル同等もしくは上回ることを全周期で確認 した。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:12	また、設定した地下構造モデルの理論伝達関数と、7.5. 5.2 表に示す、示すボーリング孔内減衰測定結果に降りられたQ値及び速度構造の理論伝達関数、
0:47:24	マークシート続いておりました結局、最終的に、以上に設定した地下構造モデルが妥当であることを確認したというような記載に修正してございます。
0:47:39	と、あとの、
0:47:43	あと留萌の部分であったりとかそれから地下構造モデルの部分、それから、実観測記録の記載については川内と同一の変更点になってございます
0:47:55	続きまして衛藤TV07、057の方でまとめ資料の方の変更点をご説明させていただきます。
0:48:04	川内と同一でない箇所については
0:48:09	93 ページのところをお願いします。
0:48:13	前回のヒアリングで今後、地下構造地震動評価に用いるモデルはということで書いていたんですけども、今回の評価についても今回、地下構造モデル、
0:48:26	標準応答スペクトルを使ったもの、ものを使ってますので、その記載を地震動評価に用いる地下構造モデルはという書き出しに修正しているというところがございます。
0:48:35	同じように 124 ページについても同様の修正をさせていただきます。
0:48:40	ご説明は以上になります。
0:48:43	はい。規制庁鈴木です。ご説明ありがとうございました。
0:48:47	はいまず最初にまとめ資料は今回で、今後か今後って書いてた部分を、地震動評価に用いる地下構造モデルと直したのは、はい、わかりました。
0:48:57	そうするとですね、結局最後残るところは、どうでしょうかね。
0:49:05	限界もうこのCの扱いというところは、この被害地震のところ、
0:49:13	もともと申請書上の被害地震として幾つか挙げてるっていうのは結局これどうという地震タイプだったり或いはどういう地震を検討地震に選ぶかという仮定の話。
0:49:26	ということで、いやもちろん後でも使ってますね。
0:49:32	いやこれ、熊本地震あったじゃないかっていうのはあるんですけど。
0:49:44	我々も
0:49:46	や熊本地震等の新しい

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:50	データがえられたんでそれで地下構造モデルとして今回見直しましたと言ってるところ。
0:49:56	それがー。
0:49:59	ちょっと地下構造モデルのところだけ出てくるかっていうのがもともとあったんで、ヤノで年超過の時には聞いたわけですけどね。
0:50:08	うん。
0:50:21	はい。ちょっとそこはそちらの意図としてわかります多分気象庁カタログとか更新し出すとということだと思んですけど。
0:50:29	地下構造モデルのすいません本
0:50:32	本筋のところていきますとですね。
0:50:36	地下、
0:50:40	地下構造モデルが 20 ページかな。
0:50:43	ここも、
0:50:46	冒頭の趣旨というか書きぶりは、これもだから長周期の理論的手法の、を用いるという観点と、
0:50:54	標準応答スペクトル、短周期まで含めた標準応答スペクトルを用いる観点で、地下構造モデルが、
0:51:00	設定されなければならんというところはさっきの、
0:51:04	仙台と一緒に。
0:51:06	なんですけど、
0:51:07	一方でどうしますかねと、設定根拠のところは、
0:51:12	2 段階あるんですよ。
0:51:30	この
0:51:32	速度構造は、確かにこれですとPS検層に基づき設定はい。
0:51:39	ここはだから何も変わらないですね今日からね。密度も変えてなくて減衰値は、
0:51:51	ここはやっぱり短周期体にも適用することを考えてこうい。
0:51:56	設定の仕方を
0:51:59	しました。
0:52:02	という部分なんですよね。
0:52:04	これがなんか何もないと、ゼロベースで、
0:52:08	すべてを何か見直し始めましたかっていうところがあるので、
0:52:13	9 次のところは少しその短周期体への適用性と、いわゆる標準応答スペクトルの適用性っていうのを考えてこういうことをやった。
0:52:23	というところが設定の段階でまずわかるようにしておいて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:27	方が、
0:52:28	後の妥当性のところでも、さっきみたいにですね、切り分けやすいかなというのが、
0:52:34	あるんですけど。
0:52:44	具体的に言うとだから 20、
0:52:46	21 ページの、
0:52:48	地盤減衰Q値はのところですよ。
0:52:50	先ほどの仙台はこの部分もひっくるめて慣用値だったんで、何もなかったんですけど、
0:52:59	ただ玄海の場合はこの部分が正しく、今回、
0:53:02	短周期他への適用性を考慮してやりましたという部分。
0:53:06	なんですかね。
0:53:09	ですよと。
0:53:11	ここで初めてコガナカサブになるわけですよ。
0:53:19	その上ですよ。
0:53:21	設定した地下構造モデルと、
0:53:25	の移行のところ、これはちょっと待ってくださいね。
0:53:30	鉛直アレイ地震観測記録速度モードの応答スペクトル。
0:53:35	ここはどうなんですかねあれちょっと待って、これは今書いてある。
0:53:39	制定した構造モデルについてといて、
0:53:43	書いてあることはこれをすべて今回のことだけ、
0:53:48	はい。九州電力の本村です。今回妥当性確認で二つ項目あると思うんですけど、鉛直アレイの応答スペック、観測記録の応答スペクトルとの比較、それとあと、
0:54:00	今までPS検層モデルと言ってた理論伝達関数との比較は、もう今回の審査でご説明した妥当性確認のメニューになります。
0:54:11	はい。そうするとさっきの仙台との関係でいくと、
0:54:15	それ以外のというか、いわゆる地震期は相当見える深いところだとか、
0:54:20	今回これ、銚子北井も含めてね、の妥当性確認のかもしれないんですけどなんかもともとも妥当性がなかったのかって、
0:54:29	妥当性設定した地下構造モデルについて、今書いてあるこの中身だと、
0:54:34	もともとの、
0:54:36	ものについての記載は何もなかった、ないというかもうじゃもともとは単に作っただけですかということに、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:43	ならないですかね。
0:54:48	九州電力の本村でございます。もともとその許可我々妥当性の確認メニューとしては、仙台で二つあるって言ってましたけど、そのうちの一つのですね鉛直アレイの伝達関数との比較をずっとしてまして、当時は当然長周期の、
0:55:05	Q値 100 のモデルでの妥当性確認でしたので、
0:55:09	ちょっと今回、減数をいじると、そのレベル感というのが、
0:55:13	900 だと大きかったのが、
0:55:16	92.5 となると、小さくなったりするわけで、はいはい。そういうところで、今回、そこら辺ひっくるめて、鉛直アレイの観測記録の応答スペクトルだとかあとPS検層モデルっていうので、
0:55:29	ひっくるめてっていう言い方が正しいか、あれですけども、そういうところだけをちょっと妥当性確認メニューとして書かせてもらったというちょっと経緯もちょっとあります。はい。
0:55:40	はい。規制庁鈴木です。そうすると、
0:55:45	今回のところ、ノダQ値が 100 頭、12.5 だったら 16.7 で違いはあるんですけど、
0:55:51	メニューとしてはどっち評価のもの。
0:55:54	妥当性確認は、
0:55:57	メニューの 1 個目の、
0:55:59	中にもともとあって、それを今回Q値を変えてやり直し、やり直したというか、
0:56:07	短周期足りねえ話で、
0:56:09	この 1 個目のパラグラフに 12 ページの 1 個目のハラウノオクの中に、
0:56:14	含まれてるんであえて長周期体は何々ってか、書きようがないっていうそういう理解でいいですかね。
0:56:21	電力の本村です。そういうことをちょっと考えてはいたんですけど。
0:56:28	はいはい。
0:58:01	は、
0:58:15	あれそのまま透明資料ベースのところ、
0:58:20	今日、
0:58:22	僕は言っていましたっけ許可の地下構造モデルの設定方法
0:58:29	どこだったかな。
0:59:18	限界ですよね玄海とも資料を見ていくと。
0:59:27	この時には、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:29	妥当性、
0:59:41	どうするんだ。
0:59:42	L2-200 深いところといえる-2 くださいと書き分けばいけるのか
0:59:49	でもない。
0:59:59	速度構造とかも含めて既許可のときだと。
1:00:03	これが1日版のT051の215ページぐらいから多分許可の、
1:00:10	地下構造モデルなんだよね。
1:00:12	別にQ値だけの妥当性を我々別最後妥当性と示してもらってるわけじゃなくて、そこは設定根拠で、最後地下構造モデルの妥当性としてといったときに、
1:00:22	今回キュウチョウ大幅に変更している、浅いところは確かに書いてある通りのことなんですけど、
1:00:30	そうするとそこしか妥当性を確認しなかったかのようにもこう読めてしまうんですね今の記載だと、
1:00:43	九州電力の本村です。仙台の話で復帰評価の時に二つ、鉛直アレイの観測記録とあと微動アレイというところを確認してましたけど、川内玄海の方でも、
1:00:55	許可のまとめ資料とかには、確認行為としては、ちょっとは書いてまして、それを入れるっていう、仙台と同じような深いところは微動アレイと書いていうところは、
1:01:05	書けるかなとはちょっと思ってますので、
1:01:11	そういう感じで、
1:01:12	はい。この資料でも219ページかな微動アレイ観測に地下構造モデルの確認と書いていて、
1:01:21	こういうこともやっ。
1:01:23	では、言ったわけですよ。
1:01:26	その前提があった上で今回減衰値としては、大幅に現実的な値にした浅い部分については、確かに、
1:01:35	二つのメニューで、妥当性の確認はしてるんですけど、何かそれ以外のところが、
1:01:40	これ今の書き方とナカ200メートル浅いところのことしか言う目名層にも見えるので、
1:01:48	ちょっと仙台と違うのは仙台はモデル別に書いてないけれども、長周期体に対して妥当性確認したもとの部分と、単収ゲーム拡張して妥当性を確認した後々の部分とでは書き分けましたけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:03	ちょっと限界はね、モデル自体を少し最後いじってと、統合する際には、変更になるわけなので、
1:02:10	そうするともしかしたら深いところひっくるめての話と、減衰値を現実的な大にした浅いところの話、切り分けて書くか。
1:02:19	いずれにしてもうちちょっと今の記載だと妥当性って言うところが標準応答スペクトルで今回説明したところ以外の妥当性が、
1:02:28	もともと書いてなかったゆえにですね明確に、
1:02:31	何か抜けてしまってるようにも見えるので、
1:02:35	コウコウはもう少し工夫いただきたいかなと思うんですが、これもどうですかねテレビ会議で入っておられる。
1:02:44	本店側というかその他の方も含めて、九州電力の方でいかがですか。
1:02:54	ウェブからアカシでございます。今鈴木さんの方からご指摘あった趣旨理解いたしました。
1:03:02	今現在の柿木がどうなってるかはノモトの方からお話した通り、伊井でございますので、玄海はモデル、川内と違うところとしてモデルを修正をし、
1:03:16	修正等というか、ブラッシュアップというかした、それを踏まえてちょっと浅いところと、もともと過去に
1:03:26	が取れてた深いところというところで切り分け、
1:03:30	ていることによって1から今回やりましたと言うイメージにはならない書きぶりにはなるかなとは、思います。
1:03:43	逆に今日のメンバーあそびんときてますでしょうか。
1:03:57	本村です。大体イメージはちょっとついてるので、
1:04:03	と考えたいとは思ってるところですけども。はい。
1:04:13	ウェブからアカシです。すいません。
1:04:16	ヒアリングのウェブを通じて社内でのやりとりをして申し訳ございません。要はここもうあんまり限界と、ごめんなさい仙台というあんまり難しく書き出す。
1:04:28	必要はなくておそらく必要になってくるのは
1:04:33	特に 22 ページかな。
1:04:36	のところがろうの要は設定したモデルの妥当性の確認のところこれ、今今回の審査でもご説明した、
1:04:47	ところを伸びの書きぶりになってるのでここは先ほど本村君が言ったような、もともとその微動アレイで確認を取ったりしてたもともと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:58	こうやってた、それにさらに、今回こういうことをやったと、いうことを書けばいいのかなというふうに考えております。
1:05:08	以上です。
1:05:10	規制庁するケースは深さ方向で一致のある一つのやり方であるので、今おっしゃったように、微動アレイで、
1:05:18	それに加えてこうっていう書き方も、それはそれでありだと思っておりますので、
1:05:22	はい。
1:05:24	そうするとちょっと待ってくださいね。なのでちょっと仙台と若干書きぶり若井変えなきゃいけないとは思いますが。
1:05:32	地下構造モデルの冒頭のところでその二つの用途がありましてという話と、
1:05:37	Q値のところは特に短周期側への適用性を考えて、こういう設定根拠にしていますと。
1:05:45	いう話を書いていただくと、あとは設定した地下構造モデルのところについては、以降はですね、
1:05:52	これちょっと今の柿木司書き方だと今回の標準応答スペクトルで妥当性示した、
1:05:57	の確認をしてですね浅い部分のお話しか読めなくなってしまうのでそこは工夫してくださいと。
1:06:05	そういうことでございます。はい。
1:06:13	ルームのところはもう、先ほど1回申し上げましたさっきの川内と同じような理解で
1:06:20	ちょっと一昨日のヒアリングで私の方から蛇足になっていた部分は、
1:06:24	なくても意味は通じるということで、はい。
1:06:29	特に九州電力の方から、他によろしいですか。
1:06:33	なければ、
1:06:34	はい。
1:06:36	まとめ資料の内容については理解しましたので、はい。
1:06:42	では特になければ以上でヒアリングは終了したいと思います。
1:06:47	はい。ではお疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。